

海外教育報告

オルドス地域における民族教育の歩み

ザラガムジ\*

The Steps of Ethnic Group Education in the Ordos Area of China

Zalgamji

**【要 約】** 中国内モンゴル自治区の西南部に位置するオルドス市は改革開放政策を導入して以来、現在はエネルギーの産地として注目を集めている。本文では、オルドスにおける民族教育の歩みについて詳しく紹介することにした。

オルドスで教育が始まったのは20世紀20年代の後半にあたり、戦乱期を経て、建国を迎えたが、その後も、様々な阻害を受け現在に至る。建国以来、地域の教育にもっとも悪い影響を与えたのは、「大躍進運動」と「文化大革命」という二つの政治的動乱であった。

---

\* 摂南大学大学院国際言語文化研究科院生

オルドス市は中国内モンゴル自治区西南部にあるオルドス高原に位置している。オルドス市は内モンゴル自治区の12の盟市（盟9と直轄市3）の一つであり、2001年まで伊克昭盟と称されていたが、2001年から自治区の一つの直轄市になった。オルドス市は、東のジュンガル旗、東北の達拉特旗、北西の杭錦旗、西側の鄂托克旗、鄂托克前旗、烏審旗と西南部の伊金霍洛旗など7つの直轄旗の行政組合で成り立っている。西側、北側、東側を黄河で囲まれ、長い歴史と文化を持つ自然資源の豊かな地方である。

中華民国の前期1925年まで、オルドス地域に正式な学校教育はなかった。モンゴル民族の言語、文字、文化は主に家庭の伝承、友人の教え、公文役人の弟子扱いというルールで伝承されてきた。明朝や清朝の時代には数多くのラマ廟が文化を伝承する主体となっていた。清朝末ごろから政府の開墾政策が実施されるにしたがって、漢民族がオルドス地域に入り込み、漢民族の主な教育手段である「塾」がオルドス地域の一般牧民の教育を受ける方法の一つとなった。そのとき10人以下の塾が普及していて、モンゴル語で教授する塾も少なくなかった。多くのモンゴル族の子供たちが漢語やモンゴル語に通暁して、民族の文化の伝承や発展に大きな役割を果たした。

オルドスの近代教育が正式的に始まったのは20世紀の20年代末ごろからである。1926年、梅楞の唱導と郡王旗の協力で小学校が建てられて以降、1929年ジュンガル旗のタイジ（官職名）奇子俊の設立した同仁小学校がオルドスの民族小学校教育の始まりである。1938年、郡王旗のゲルデン廟で設立した国立伊盟中学（モンゴル族と漢族の合校）はオルドスのモンゴル族中学教育の始まりである。1956年に設立された伊克昭盟第二中学校はオルドス史上初めてできた単独のモンゴル族中学校である。1958年、烏審旗に初めてモンゴル語で教授する幼稚園が設立された。1965年、伊克昭盟第二中学校で初めて中師（中学や小学校の教師を育成するのが目的）クラスを付設したことは、オルドス地域の中等師範教育の始まりである。

20世紀20年代末から現在までの半世紀あまりの期間、オルドスの教育状況は一步一步と前進してきた。次に、教育状況を民族幼児教育、民族小学教育、民族中学教育などいくつかに分けて説明する。

## 第一 モンゴル族の幼児教育

1958年、烏審旗で初めてモンゴル族幼稚園が設立されて以来、60年代初期、烏審旗、杭錦旗にモンゴル族幼稚園が続々と設立されたが、「文化大革命」の10年間、民族幼児教育は最悪の被害を受け、殆どの幼稚園が中止された。校舎が占領され、設備が壊され、教師たちが追い出され、民族幼児教育は10年間停滞された。1976年「文化大革命」のあと、民族幼児教育事業が再び回復され、以下のような著しい成績を取めた。

1977年、鄂托克旗モンゴル族幼稚園が設立され、クラスを二つ設置し、当時入園幼児44名、保育員9名がいた。1981年12月、自治区優秀幼稚園と評価された。1985年、4クラスに増加され、入園幼児が99名、保育員が18名になった。

## ザラガムジ：オルドス地域における民族教育の歩み

1980年、烏審旗モンゴル族幼稚園が設立され、1985年にクラスを三つに設置し、入園幼児が35名、保育員が10名になり、オルドスの文明幼稚園と評価された。1987年、親学校（家長学校）が設立され、1990年に盟級前進親学校と評価された。

1980年、伊金霍洛旗モンゴル族幼稚園が設立され、クラス一つを設置し、入園幼児12名、保育員5名だったが、1985年にクラスが二つ増え、入園幼児が87名になり、保育員が10名まで増えた。

1980年12月、伊克昭盟モンゴル族幼稚園（現在のオルドス市第一幼稚園）が東勝市（現在の東勝区）で設立され、大クラス、中クラス、小クラス各二つが設置され、モンゴル語教授を用いた。建設面積は1,674平方メートルで、設備も殆どそろっていて、当時の全盟の幼稚園で一番よい幼稚園になっていた。建設された当時、入園幼児35名、保育員6名だったが、1985年に入園幼児が105名、保育員が24名まで増えた。



（出典：朝日新聞社『知恵蔵なっとく世界地図』'05-'06, 2005、52頁）

1981年、杭錦旗モンゴル族幼稚園が建設され、クラスを6つ設置し、保育員が23名いた。

1981年、達拉特旗モンゴル族幼稚園が設立され、クラスを3つ設置し、入園幼児80名、保育員が8名いた。1985年になって、入園幼児が118名、保育員は10名まで増えた。

1983年末、ジュンガル旗モンゴル族幼稚園と鄂托克前旗モンゴル族幼稚園が続々と設立され、

各3クラスと4クラスを設置し、入園幼児が各78人と106人、保育員が各11名と14名であった。1985年になって、入園幼児が各85名と130名となり、保育員は各12名と15名となった。

1985年からモンゴル族幼稚園で学前班（小学予備クラス）を設置するようになった。

1991年当時の教育局は《伊克昭盟幼児教育十年企画と“八五”計画》を制定して実施した。この年、オルドス市のモンゴル族幼稚園が17ヶ所になり、在園幼児が1,304名、保育員が167名、小学予備クラスを開設した小学校が11ヶ所、予備クラス19、在学児童338名まで増えた。

## 第二 民族小学教育

1926年に郡王旗小学校が設立されたのがモンゴル族小学教育の始まりである。これから1950年までジュンガル旗の同仁小学（1929年）、鄂托克旗吉拉小学校（1936年）、烏審旗河南の抗聯会小学校、テムルオボ小学校、ジュンガル旗暖水小学校、達拉特旗ムフル召小学校などが著名な存在だった。

1926年、郡王旗の高級官吏が教育の重要性を感じて小学校を設立したが、まもなく戦乱のため、壊された。1929年、再び小学校を建設したが、土匪の動乱で撃ち壊された。1935年壊された小学校を旗政府の所在地で建て直した。1936年の統計によると、漢族とモンゴル族の生徒数は合わせて16名だった。漢族の生徒の学費は免除され、モンゴル族の生徒は無料だった。学校の経費は毎年160元（銀）で、旗政府から寄付していた。漢族の生徒は秋の収穫時に帰り、モンゴル族の生徒は厳冬になったら家へ帰った。学習期は7ヶ月だった。

1929年5月、ジュンガル旗のタイジ（官名）奇子俊は銀貨一万元を集めて、シャツダル鎮で同仁中学付属小学校を設立して、教員5人を月給16元—30円で、雇って、82名（内女性二人）のモンゴル族の子供たちに、国民政府から配布した、中華書局出版の教科書を使い、モンゴル語、英語などを教えた。生徒の服装、食品、教科書などの費用は全部政府から供給していた。1932年、奇子俊親子が殺され、学校は中断したが、1934年、奇文英氏かがら学校を回復し、校舎を旗政府の所在地に移した。経費5,000元（2,400元を中央蒙旗教育補助費から出し、残りは旗財政処から出した）。初めのころは、モンゴル族の生徒だけだったが、学校を回復した後、漢族の子供の入学者はわずかだった。それからまもなく戦乱のため、校舎が何回も移動され、終に財政の困難、教師や生徒の散乱のため、学校は停止された。

1934年、達拉特旗バインツウクムモンゴル族私立小学校が設立された。生徒10人、教員一人、学費3元—5元、食事と宿泊は自立とした。同年、達拉特旗チャイダムでも小学校が一つ設立され、状況はバインツウクム小学校とほぼ同じだった。

1936年、鄂托克旗の章文軒氏が個人住宅を校舎として使い、鄂托克旗第一旗立小学校——吉拉小学校を設立した。生徒は民族、貧富を問わず、入学できた。費用は学校が負担した。授業科目はモンゴル語、算術、中国語、音楽、体育など。1946年までは学校の規模はだんだん拡大していったが、一月に阿拉廟武装蜂起が起きて、章文軒氏が殺され、学校は解散された。1947年、学校は復元され、1949年、鄂托克旗政府に受けつがれた。

## ザラガムジ：オルドス地域における民族教育の歩み

1936年、烏審旗王府が現在の達布查克鎮で国立烏審旗中心学校を設立。初めは中国語で授業していたが、1944年からモンゴル語の科目も増設された。戦乱のため、校舎が何度も移動したが、建国後現在の達布查克鎮に戻り、烏審旗第一小学をされた。1936年、杭錦旗の王様が鄂托克旗と烏審旗を真似て、明德小学校を設立した。1948年、戦乱のため、解散された。

1937年、ザサック旗保安司令ワチルフヤットが国立ザサック小学校を設立した。生徒35名、モンゴルクラスと漢族クラスの二クラスに分け、教師は二人だった。1942年、国立伊盟中学付属小学校に変わった。1944年、完全小学となり、解放前解散された。

1939年、綏遠省教育庁が郡王旗の霍洛ソムで国立辺疆実験小学校を設立した。1940年停止され、1950年回復した。1953年、ソム政府の所在地で学校を設立し、石灰廟にあった小学校を移してきた。これは、現在の霍洛モンゴル族小学校である。

1940年、国民政府が景向春を派遣して、元ジュンガル旗保安司令奇文英の設立した暖水小学校を接取して、国立暖水完全小学校と改建した。土默特旗から教師を雇い、1941年から授業を開始した。1948年、戦争のため停止された。建国後も暖水小学校と呼ばれていた。

1941年、烏審旗の奇国賢が王府学校一ヶ所を設立し、モンゴル語と中国語で授業して、抗戦内容を加えた。1942年、奇国賢が共産党と内通した疑いで国民党に殺され、学校が停止。1944年、抗日聯合会の指導で抗日聯合学校と改名して回復した。モンゴル族の子供と漢族の子供合わせて20人に国語、モンゴル語、算術、時事政治や三民主義を主な内容として教授した。1945年、内戦が勃発し、聯合学校が鄂托克旗の城川鎮に移動し、城川学校と合併したが、終に解散された。1949年、回復し、1950年に河南区小学と改建した。

1942年、烏審旗の保安大隊長のバトオチル氏がテムルオボ小学校を設立した。1943年、綏遠省教育庁に国立テムルオボ小学校に許可された。これは、「ヅグイラン」（円形を意味する組織）運動を発揚するため、国民党の独裁統制に反抗し、牧草地を保護する人材を育成するため、創設した学校である。モンゴル語と中国語で授業し、生徒は最初の10人から50人まで増えた。建国後、一度民営学校となったが、1982年に公立学校として承認され、20万元ぐらい投資して改築され、1992年ごろはクラス6個、生徒280人、教師20人で、校舎条件や教育レベルの高いモンゴル族小学校となった。

1949年に全国解放されるまで、オルドス地域の小学校は10ヶ所以上になり、生徒510人で、モンゴル族人の約0.37%だった。1949年から1952年にかけて、オルドスの小学教育は、「回復・整頓・改造・興建」方針に基づき、モンゴル族の子供たちの入学することを激励し、モンゴル族の生徒たちに対して、無料待遇を果たし、民族言語で教育を受けることを貫いた。

1953年、国民経済第一次五年計画を実施して、オルドス地域の完全小学が9ヶ所、初級小学校が25ヶ所となり、在校生徒とが3,656名に達した。教員が100人ぐらいになった。そのうち、師範学校を卒業した人もいた。1956年から1957年にかけて、全モンゴル学校に対して、新モンゴル語(キリル語)を教え始めたが、まもなく停止して、旧モンゴル語を用いるようになった。1957年から、各モンゴル族小学校で、100点採点方法を5級採点制に変えた。

1958年、「大躍進運動」が始まり、モンゴル族小学校の数が急に増えた。しかし学校教育は弱まり、社会实践時間割が大幅に増えた。

1959年、改めて学校教育を強調するようになり、モンゴル族小学校の分布と規模に部分的な調整が行なわれた。モンゴル族完全小学校が16ヶ所、初級小学校が63ヶ所になった。

1960年から1962年にかけての3年間の経済困難時期に全国的な経済調整によって、民族小学校の数量が減少した。

1963年、経済情勢の好転に伴い、民族地域に新たに小学校が増設され、他民族の雑居地域に民族クラスが増設された。この年、オルドス地域でのモンゴル族小学校は54ヶ所、蒙漢合校は12ヶ所になり、在學生が3,796人になった。

1966年、「文革大革命」が始まり、学校が運動に巻き込まれ、民族教育が大きな打撃を受け、民族教育が廃止されそうになった。

1978年から、少数民族地域の民族教育が再び重視され、1980年にオルドス地域のモンゴル族小学校が220ヶ所まで増え、クラス880に達し、在學生が17,737人、教職員1,524名になり、そのうち専任教師は1,168名だった。

1984年、オルドス市共産党委員会の「教育工作を強化する決定について」に基づき、1985年から全市で初級教育を普及させる任務が下され、1987年までに、牧畜区に小学校教育を普及させることと全市に初級教育を普及することを完了させた。それとともに、学校教育の条件を高めることが図られた。

1986年以来、西部4旗にモンゴル語で授業することを強調し、中国語の授業を加えた。東部4旗に特定の学校でモンゴル語で教授するが、他の一般的なモンゴル族学校では中国語で授業するようになった。

1991年まで、オルドス市の小学校を91ヶ所、クラス555個まで調整し、在學生13,604名、教職員1,625名になり、そのうち専任教師1,190名、大学卒業生10人以上、短期大学卒業生29人以上、専門学校卒業生763人以上、“専門証書”を取ったのが130人であった。

### 第三 民族中学教育

1938年、国立伊盟中学が郡王旗のゲルデン廟で設立された。初めて入学した生徒は60名、半分がモンゴル族の子供だった。科目には中国語、数学、モンゴル語など。1939年9月、学校がザサック旗のザイサン召へ移動。1946年、また包頭へ移動。1952年、包頭から東勝へ戻り、伊克昭盟中学と改名された。当時はモンゴル族の生徒が204人いた。1952年から1956年まで、モンゴル語で教授するクラスがなかった。

1956年の秋、伊克昭盟第二中学が東勝で設立された。完全モンゴル族中学で、全部モンゴル語で授業をするようになった。設立当時、6クラスを設置して、生徒が371人、教職員35名、そのうち、専任教師24名だった。

1958年から1962年にかけて、オルドスのモンゴル族中学が4ヶ所まで増え、クラス16、在學生400人、教職員59人、専任教師54人がいた。

1963年から1966年にかけて、鄂托克旗、杭錦旗、烏審旗でモンゴル族中学校、あるいは小学

校に予備中学を設置し、教学クラス17個、在學生708人、教職員80人、そのうち専任教師66名だった。“文化大革命”の時期、モンゴル族教育が史上最悪の災難を受け、モンゴル族中学校が全部停止された。イク昭盟第二中学が1969年8月から漢族の生徒を募集始めたが、翌年に廃止された。

1973年、東勝市でイク昭盟民族中学校（現在のオルドス市モンゴル族中学校）を再建し、高校生一クラスを募集し、簡師班一クラスを設置し、生徒全員105名だった。それからまもなく、鄂托克旗、杭錦旗、烏審旗モンゴル族完全中学や初級中学が続々と建てられた。

1977年、イク昭盟民族中学校で高校クラス5、師範クラス3を設置し、生徒合わせて300人、教職員45名がいた。1978年、自治区教育庁イク昭盟民族中学校を自治区34ヶ所の重点中学の一つとして設定した。同時に、鄂托克旗モンゴル族中学校、杭錦旗モンゴル族中学校、烏審旗モンゴル族中学校を全盟（オルドス市内の）の重点中学校と設定した。民族教育のレベルを高めるため、教育局から民族教育事業の研究・指導を強化する「民族教研室」を設置した。

1978年、ジュンガル旗、伊金霍洛旗、達拉特旗でもモンゴル族中学校が建てられた。

1980年、モンゴル族中学校を調整し、高校を圧縮し、中学を強化し、教学条件を改善させ、教学レベルを高めた。同年、オルドス市全域にモンゴル族中学が25ヶ所、クラス148、在校生7,500人、教職員603人（専任教師439人）となった。

1978年から1985年まで、毎年平均して20名から30名の生徒が大学に進学した。

1986年、鄂托克旗、杭錦旗、烏審旗、鄂托克前旗で民族職業中学が設立され、当地の経済発展のための人材を育成した。

1987年、モンゴル族および他の少数民族生徒の大学進学率が高まり、初めて100人を突破。

1991年、毎旗に一つの重点モンゴル族中学を持つようになり、在校生7,446名、教職員901名（専任教師591名）になった。民族職業中学が5ヶ所、在校生1,392名、教職員185名（専任教師110名）になった。

#### 第四 職業教育

中国では小学校・中学校・高校教育の他、職業教育・中等專業教育・師範教育・成人教育も行われているが、オルドス市の例を紹介しよう。

##### 1. 職業教育

職業教育の目的は、オルドス市が半農・半牧地方という現実を踏えて、農業・牧畜業生産に勤められる農業や牧畜業の基本知識を掌握した人材を育てるため、1958年、劉少奇氏の『二つの学校教育制度』の思想に基づいて発想したものである。この年、オルドス市に農業中学14ヶ所、工業中学1ヶ所、牧畜業中学1ヶ所が開設され、他の学校にも「半工半読」クラスが設けられた。こういう職業中学では、生徒たちがそれぞれの専門知識を学び、学校の所有する畑

で実践して、卒業してから地元へ帰り、農業・工業・牧畜業の手伝いをする技術者になるのである。1970年代から職業教育の範囲がだんだん広がり、1977年末に農牧業中学が36ヶ所になった。1980年から中央政府の提出した中等教育改革政策にしたがって、都市と町で多種の職業中学が成立するようになり、専門職業中学以外に、工農牧業余中等技術学校、業余中学などを創り、普通中学校でも職業クラスを試み始めた。1982年、オルドス市に中等職業技術学校が31ヶ所あり、生徒1,258名、業余中学215ヶ所、生徒14,000名になった。1983年から1984年まで、職業教育の発展を励ますとともに改革を加え、独立農業職業高校を9ヶ所とし、19ヶ所の普通中学校に60個の職業クラスを設けた（高校に46クラス、中学に14クラス）。在校生2,533名（うち、高校生1,946名で普通高校生の38%）、専門は農業、林業、牧畜業、養殖業、裁縫、家電修理、幼児師範など。それとともに、教員を大学へ派遣して研修させたりして、教員育成の訓練を強化した。

1985年から、さらに改革を行い、普通高校を圧縮して、職業学校を発展させた。普通高校が31ヶ所から22ヶ所になり、圧縮率は29%。普通高校のクラス数が186から151になり、圧縮率が18.8%。普通高校の在校生が8,391から7,270まで減って、圧縮率が13.4%。独立農業職業中学10ヶ所、そのうち新たに創ったのが1ヶ所。職業クラスを設置した普通中学校が18ヶ所（中学2ヶ所、高校16ヶ所）、職業クラス合わせて75クラス、在校生2,996名、そのうち農業職業高校生が普通高校在校生の31%。開設した専門は農学、植林造林、牧畜獣医、養殖、裁縫、石炭、電気修理、幼児教師、音楽、美術、撮影、体育、民用建築、秘書など10種類以上。

1989年までに学校経営を厳密に監督し、自治区政府、教育庁などいくつかの上級組織の検査を受け、経験をまとめ、職業教育を始めて、盟市の「目標管理責任制」に収めて、まもなく東勝で職業高校が設立された。1989年、職業高校クラス40、卒業生439名、中学クラス88、卒業生1,067名、職業学校が他技術学校と中等専門学校が1,892人の生徒を募集し、当地の経済発展や人々の生活の改善に役立つ人材を育てている。

1990年からオルドス市の職業高校の専門科目をマクロ的に設置し、伊金霍洛旗は牧畜業職業高校を中心に、杭錦旗は農学林学を中心、鄂托克旗は牧畜民に対する牧畜業を中心、ジュンガル旗は石炭専門を中心、東勝市はカンミヤや機電専門を中心とするように設定された。

1992年になって、オルドス市の普通高校と各種類の中等職業学校の生徒募集率が1:1.22で、在校生の比率が1:0.76になった。当時のオルドスの農業や牧畜業の発展に役立ったことは間違いない。

職業教育の対象は小学卒業生と中学卒業生に対し、オルドスが半農半牧地域である状況に合わせて、専門技術を習得した労働力を育てるのが目的である。

## 2. 中等専門教育

中等専門学校というのは職業学校とほぼ同じだが、中等専門学校教育は職業学校より専門的なイメージを持ち、専門技術をより深く学ぶことができるし、卒業した後も就職するチャンスが職業学校の卒業生より良いのである。職業学校の殆どが中学や高校と同校しており、中等専



門学校は独立した校舎や教師、設備などもよりよくそろっている。

現在はオルドス市の中等専門学校が短期大学の形に変更している。主な学校とはオルドス衛生学校（前身は伊盟衛星学校、1959年設立）、伊盟工業学校（1959年8月）、伊盟農牧業学校（1978年5月）、伊盟中級技術工人学校（1979年10月）、伊盟財經学校（1979年秋）、内モンゴル芸術学校伊盟校（1980年10月）などが挙げられる。

### 3. 民族師範教育

建国初期ごろ、オルドス地域では教師がおらず、主に社会の知識人、特にラマ僧に頼っていた。教育部門が夏休みや冬休みの期間を利用して、教師たちを培養することにも力いれ、学びながら教授することを激励した。同時に、外地から教師を雇ったり、当地の中学校でも中等師範クラスを開設したりして、教師不足問題を解決するよう試みた。レベルのより高い教師を育成するため、1980年7月、オルドス市（当時の東勝市）で初めての中等民族師範学校が設立され、それがオルドスの民族小学校の教師を育成する重要な一歩だった。1989年6月、自治区教育厅より、自治区全域に対して民族師範学校に調整を行い、オルドスの民族師範学校を内蒙古民族師範学校とした。同時に、毎年オルドス地域から最低限30名以上の師範学生を募集するように命じ、卒業した後、オルドスへ戻って各モンゴル族学校で働くよう決定した。これから、オルドスの民族教育に対する教師を育成することが自治区の民族教育計画の一つとなった。

## 第五 民族教育の現状と抱えている諸問題

### 1. 教育の目的

オルドス地域の教育目的を一言で言うと、地方の経済発展に適する技術や基礎知識を習得した労働者を育成するとともに、より高いレベルの人材を育成としているが、長い間、小学校、中学校、高校は進学率に熱中し、生徒たちがどれぐらいの基礎技術を学んだかは別のことになっているのである。生徒たちは高校を卒業するまで、どうして勉強しているのか、将来何をするか、人生の目的は何かを分からないまま、社会に出て行くのである。問題点を整理すると、以下のようになるだろう。

- ① 牧畜区で生まれ、牧畜区で育った生徒たちが、どうしたらモンゴル民族の頼る牧畜業になるかが分からない。
- ② 生活環境が日一日悪化していることを自分の目を見て、体で体験しているが、それを改善する努力がなく、砂漠に脅かされ、田舎を捨てて、都会あるいは外省へ逃げて行く人が少なくない。このような環境問題は、実に、内モンゴル自治区全体の真剣な問題になっている。これからの教育内容はただ、教科書に載っている基礎知識を教えるだけでは不十分であるし、教育の内容に改革を実施し、学校教育から入手して、人々を呼び覚ますことがもっとも大事

な教育になるはずである。

## 2. 教師の配置

師範大学とか師範学校を卒業した者は、通常学校の教師になるしか道はないとされている。師範学校を卒業したら、その卒業証が免許書になり、師範大学を卒業したら高校の教師、短大や中等師範学校を卒業したものは中学とか小学校の教師になるしかない。もし、特別な人間関係があれば、高校の教師になることもあるが、その例はきわめて少ない。ほかに心理的なテストとか、専門テストとかはまったくない。師範大学の卒業生が小学校に入って教師になるのは珍しいことである。「大材小用」とか「人材浪費」と言われることがあるし、教師自身もそう思うからである。いずれにしろ、学校の教師になるものはちゃんとした専門教育を受け、心理的、専門的、社会的に厳格な選抜を行い、合格者に名誉や経済面での優遇対策を用いたら、優れた教師団体を作れることは間違いない。師範大学の卒業生が必ず高校の教師になるわけにはいかない。

## 3. 生徒たちの莫大な負担

子供たちは小学校に入ってから遊ぶ時間を失ってしまう。教師たちは生徒たちが遊んでばかりいるのを見たくないし、両親も子供が遊びばかりしていることを許さないのだから、その対策として宿題で子供を縛るのである。時々、両親から学校に、先生に、自分の子供を厳しくしてほしいとか、宿題を増やしてほしいと、要請にくることがある。生徒たちは、教科書に載っている宿題をしなくてはならない上、専任教師たちの個人的な目的で出した練習もしなければならない。その上、授業科目も山ほどあるのである。小学校では中国語、英語、モンゴル語、公民、地理、歴史、生物、数学、美術、音楽、体育などの科目があり、中学二年から物理学を加え、三年生になると化学科目を加えるのである。高校に入ってから科目は若干減るが、高校二年に入るまでは中学とほぼ同じである。高校二年に入ってから理数科と社会科と二つに分かれるので、ほぼ半分ぐらい減るが、これからは人生の鍵ともいえる高校卒業試験と大学受験があるので油断はできない。これで、高校を卒業するまで、自分はいったい何のために勉強しているのか分からない上、多くの生徒は勉強が嫌いになってしまう。小学校や中学校での科目の多さ、宿題の重さに耐えられなくなって、学校を辞めたり、退学したりする子供は数少なくない。また、勉強が嫌だが、学校を辞めたくない、家にも帰りたくないという矛盾した気持ちを持っている子供も少なくない。

残りの生徒たちは進学するために一生懸命努力して、幸いどこかの大学とか、短期大学に入っても、入ってから自分の選択した専門は間違っていると分かった場合、ほかの学校へ転学するのは難しいので、時間と金銭を無駄にしたのも多い。

小学から高校を卒業するまで、学校でさまざまな課目を学んでも、社会的な実践活動はほとんどない。理数科の実験だけは実験室で行うが、野外の実践はない。

## ザラガムジ：オルドス地域における民族教育の歩み

学校は生徒たちの楽しく勉強する場所であるはずである。進学率を迫る教育意識はもう時代遅れと思う。しかし、中国という特別な環境でそれを実現するのはとても難しいかもしれないが、そうした情況下、私立学校を建てるのが、教育改革を行い、生徒たちに楽しく勉強する場所を提供することができる一環であるかもしれない。なぜなら、私立学校ならば、十分な選択権利があるからである。たとえば、数多くの課目の中から小学、中学、高校に適するものを選んで、生徒たちの興味を尊重し、生徒たちの負担を削減できると思う。そうすれば、生徒たちが自分の勉強したい課目に集中して、勉強することができるのである。

これはオルドス地域だけに存在する問題ではなく、内モンゴル自治区全体における問題である。しかもこれは、モンゴル民族だけに限る問題ではない。

オルドス地域の教育における有効資料は非常に少ない。今回手に入れた資料は1992年までの教育状況を統計したものであったが、それを元にしてこの一文をまとめた。

なお補足資料として、建国以来60年代後半からの投資状況を表で紹介した。60年代後半までの15年間の投資状況ははっきりしなかったため、省略することにした。注意すべきは、これら統計はオルドス地域全体におけるもので、オルドス地域の少数民族の教育に対する投資統計ではないことである。

### 参考文献

- ・ 賈佩『伊克昭盟教育誌』オルドス日報社 1994年2月
- ・ 「内モンゴル教育」内モンゴル教育出版社 1980-1996 中国語版
- ・ 「内モンゴル教育」内モンゴル教育出版社 1982-1996 モンゴル語版
- ・ 「教育管理体制改革調査研究報告」(内部資料)伊克昭盟教育局1993年

資料

1967-1985年全盟教育系統基本建設投資狀況統計表

單位:萬元·m<sup>2</sup>

年度	投資額	施工面積	本年度新增固定資產
1967	39.72	8481.00	39.72
1968	14.67	3634.00	14.67
1969	28.65	7195.00	22.67
1970	53.04	13702.00	44.11
1971	105.99	14030.00	82.22
1972	129.38	28351.00	104.67
1973	120.05	16861.00	109.90
1974	171.46	106700.00	168.75
1975	137.16	15700.00	131.36
1976	261.83	38162.00	242.77
1977	70.00	9210.00	68.60
1978	94.30	11094.00	89.59
1979	157.60	17130.00	151.30
1980	163.00	16376.00	163.00
1981	119.30	10227.00	105.30
1982	276.10	11730.00	253.20
1983	516.90	23234.00	484.70
1984	181.00	7953.00	282.00
1985	384.00	18516.00	197.00

1986-1992年全盟教育系統基本建設投資狀況統計表

單位:萬元·m<sup>2</sup>

年度	類別	投資金額	施工面積	本年度新增固定資產
1986	合計	384.0	21500.0	460.0
	高等教育事業	9.0		80.0
	中等教育事業	238.0		267.0
	初等教育事業	113.0		113.0
	学前教育事業	24.0		
1987	合計	606.0	17455.0	554.0
	中等教育事業	258.0		243.0
	初等教育事業	166.0		111.0
	その他	182.0		100.0
1988	合計	518.0	20251.0	479.0
	高等教育事業	85.0		60.0
	中等教育事業	217.0		178.0
	初等教育事業	213.0		238.0
	学前教育事業	3.0		3.0
1989	合計	631.0	22662.0	448.0
	中等教育事業	483.0		367.0
	初等教育事業	103.0		56.0
	その他	45.0		25.0
1990	合計	598.0	25943.0	812.0
	中等教育事業	307.0		455.0
	初等教育事業	204.0		251.0
	その他	87.0		106.0
1991	合計	562.2	18745.0	184.3
	中等教育事業	534.6		161.7
	初等教育事業	27.6		22.6
	その他			
1992	合計	1127.0	36539.0	589.0
	中等教育事業	902.0		338.0
	初等教育事業	177.0		177.0
	その他	48.0		74.0

ザラガムジ：オールドス地域における民族教育の歩み

全盟教育投資状況調査表 1985-1988

単位：万元

年	1985	1986	1987	1988	
教育経費総額	3179.23	3884.04	4167.59	5148.01	
国家の投資	2979.57	3527.36	3839.93	4705.11	
内訳	教育事業費	2661.30	3157.20	3399.60	4072.10
	教育基建費	130.00	130.00	123.70	205.00
	その他教育	188.27	240.16	316.63	428.01
社会からの投資額	130.96	240.73	137.62	149.50	
半工半読で得た経費補助	17.11	57.98	103.65	192.80	
授業料と雑費	51.59	57.97	86.39	100.60	
国家教育事業経費総額比率 (%)	93.72	90.82	92.14	91.40	

全盟教育系统投資状況統計 (1)

単位：万元

年度	事業費	基礎建設費	付注
1967	368.60		
1968	328.00		
1969	307.60	28.65	教育投資総額： 336.25
1970	357.30	53.04	教育投資総額： 410.34
1971	504.00	105.99	教育投資総額： 609.99
1972	666.90	129.38	

(注) 事業費には修繕費、購入費用、民族機動基金の5%等を含む。1966年～1976年の間は、文化大革命の時期に当たり、詳細なデータが見あたらないため、本表では省略している。

全盟教育系統投資状況統計(2)

単位：万元

年度	類別	教育経費			付注
		事業費	基建費	その他	
1973	合計	701.30	120.05		
	中等専門学校				
	普通中学	169.10			
	職業中学				
	小学	446.79			
	幼児教育				
	アマチュア教育	8.75			
	その他	76.66			中等専門教育含む
1974	合計	736.90	171.46		
	中等専門学校	20.00			
	普通中学	185.00			
	職業中学				
	小学	447.00			
	幼児教育				
	アマチュア教育				
	その他	84.90			アマチュア教育費含む
1975	合計	770.00	137.16	42.00	
	中等専門学校	20.00			
	普通中学	171.40	9.00		
	職業中学				
	小学	491.30	59.00		
	幼児教育				
	アマチュア教育				
	その他	87.30			
1976	合計	733.98	261.83	27.00	自募金71.83を基建費に含
	中等専門学校	23.00	26.50		
	普通中学	227.72	128.50		
	職業中学				
	小学	256.00	85.70		
	幼児教育				
	アマチュア教育	9.30			
	その他	217.76	21.13		
1977	合計	860.90	70.00	29.00	
	中等専門学校				
	普通中学				
	職業中学				
	小学				
	幼児教育				
	アマチュア教育				
	その他				
1978	合計	1090.80	94.30		自募金9.3を基建費に含む。
	中等専門学校	38.70			
	普通中学	327.20			
	職業中学				
	小学	437.80			
	幼児教育				
	アマチュア教育	0.10			
	その他	251.00			
1979	合計	1199.00	157.60		自募金17.7を基建費に含む。
	中等専門学校	51.30	20.90		
	普通中学	409.60	72.50		
	職業中学				
	小学	474.50	31.70		
	幼児教育	8.30			
	アマチュア教育	5.00			
	その他	250.30	32.50		
1980	合計	1398.50	163.00		
	中等専門学校	64.00	21.00		
	普通中学	461.80	62.00		
	職業中学				
	小学	554.20	42.00		
	幼児教育	12.40			
	アマチュア教育	13.20			
	その他	292.90	38.00		

ガラガムジ：オールドス地域における民族教育の歩み

1981	合計	1407.30	126.00	63.00	
	中等専門学校	67.20	46.00		
	普通中学	481.30	25.90		
	職業中学				
	小学	577.70	43.10		
	幼児教育	21.90			
	アマチュア教育	4.10			
1982	合計	1736.00	276.10	35.00	
	中等専門学校	68.90			
	普通中学	643.20			
	職業中学				
	小学	706.20			
	幼児教育	23.80			
	アマチュア教育	9.70			
1983	合計	1910.80	516.90	39.00	
	中等専門学校	75.10			
	普通中学	706.00	167.00		
	職業中学	13.20			
	小学	747.40	304.50		
	幼児教育	28.50			
	アマチュア教育	33.20			
1984	合計	2315.90	181.00	31.00	
	中等専門学校	89.80	148.00		
	普通中学	785.60			
	職業中学	47.10			
	小学	923.60			
	幼児教育	52.00			
	アマチュア教育	124.10			事業費にテレビ教育費を含む。
1985	合計	2661.30	384.00	64.60	
	中等専門学校	104.00	338.00		
	普通中学	795.70			
	職業中学	90.80			
	小学	1072.00			
	幼児教育	55.90			
	アマチュア教育	55.10			テレビ教育経費を含む
1986	合計	3157.20	384.00	81.70	
	中等専門学校	118.90	238.00		
	普通中学	869.40	113.00		基建費に小学教育費を含む
	職業中学	154.70			
	小学	1301.00			
	幼児教育	63.30	24.00		
	アマチュア教育	48.90			
1987	合計	3399.60	606.00		
	中等専門学校	113.80	258.00		
	普通中学	889.40			
	職業中学	159.60			
	小学	1596.50			
	幼児教育				
	アマチュア教育				
1988	合計	4072.10	518.00		
	中等専門学校	150.40	217.00		
	普通中学	1169.30			
	職業中学	193.60			
	小学	1900.90			
	幼児教育				
	アマチュア教育				
	その他	657.90			幼児とアマチュア教育費を含む

1989	合計	4582.80	631.00	
	中等専門学校	241.10	483.00	
	普通中学	1320.60	103.00	小学基礎費を含む
	職業中学	185.00		
	小学	2109.40		
	幼児教育	131.10		
	アマチュア教育			
1990	合計	5056.70	598.00	
	中等専門学校	269.20	307.00	
	普通中学	1485.60	204.00	小学基礎費を含む
	職業中学	276.30		
	小学	2276.60		
	幼児教育	145.40		
	アマチュア教育			
1991	合計	5106.50	562.20	
	中等専門学校	322.70	115.00	
	普通中学	1389.40	339.90	
	職業中学	368.10	79.70	
	小学	2153.60	27.60	特殊教育経費を含む
	幼児教育	186.70		
	アマチュア教育	2.20		
1992	合計	6028.10	1127.00	
	中等専門学校	382.30	95.00	
	普通中学	1750.50	753.00	
	職業中学	341.40	54.00	
	小学	2641.00	177.00	特殊教育経費を含む
	幼児教育	234.40		
	アマチュア教育	5.10		
	その他	673.40	48.00	成人教育経費を含む